



黄化葉巻病耐病性を持つ ファーストトマト品種「TYファースト」を開発

—おいしくて病気に強いトマト品種で安定生産を目指します—

開発の背景・ニーズ

1996年に愛知県でトマト黄化葉巻病が初めて確認されて以来、トマト産地では、本病の被害が問題となっています。これまでに、丸玉トマトの黄化葉巻病耐病性品種を開発しましたが、本県特産のファーストトマトについては、耐病性を持つ品種がなかったため、現地から早期に開発するよう切望されていました。

成果の内容

愛知県で発生しているトマト黄化葉巻病に耐病性を持つファーストトマト品種を愛三種苗（株）と共同開発しました。本品種は、トマト黄化葉巻病に耐病性を持つほか、TMV、萎凋病及び根腐萎凋病などトマトの主要病害に対しても抵抗性を持ちます。

新品種は、トマトらしい香りが強く、甘さと酸味のバランスがよく食味は良好です。従来のファーストトマトに比べて果実の揃いが良く、果実の重さは230g程度です。

2013年3月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。



黄化葉巻病：タバココナジラミが媒介するウイルス病



タバココナジラミ

成長点付近の葉が黄化・萎縮し、収量が激減する。



愛知県農業への貢献

本県のファーストトマト生産は全国第1位で、本品種の導入により、ファーストトマトの安定生産・安定供給が期待できます。今後、トマト黄化葉巻病の被害が大きい地域を中心に14haで導入が見込まれます。

本品種の種子は、愛三種苗株式会社が販売しています。